

## 第22回佐賀県ビーバー・カブラリー 検証会(記録)

【日時】平成26年1月15日(水) 19時30分～21時

【場所】佐賀市鍋島 鍋島公民館

### 【出席者】

貞方(プログラム委員長)、江見(鳥栖1) 野下(佐賀1)、新郷(佐賀1)、古賀真(佐賀3)、竹下(佐賀5)、小野(白石1)、平田(鹿島1)、古賀(伊8)  
(コミッショナーグループ)枝吉、中島、(事務局)古賀

### 1. 開会

### 2. 挨拶 (貞方プログラム委員長)

### 3. 協議

#### (1) アンケートの結果について…(別紙参照)

- ・委員会だけの話し合いはなされたのか。責任感を持って取り組むべき。
- ・委員会での決定事項が周知されていなかった。

#### (2) 全般にわたる感想

- ・締切りを守ってもらわないとプログラム作成が間に合わない。
- ・山の中の公園であり、一般の人とへのアピールが乏しかった。
- ・既設の遊具があったがそこで遊んでいるスカウトもあり、死角となっていた。
- ・みんなが作り上げた大会となったし、想定があつてよかった。
- ・検証会の日程まで決めていればより良かった。
- ・「やくそくとさだめ」「やくそくとしまり」の唱和があつた方がよい。
- ・同じような内容が雨天時でもできたかどうか分からない。
- ・佐賀からは遠かった。会場周辺には死角となるような場所もあった。
- ・全体でのカブコールには意味があつたのだろうか。

(提案者の意見…カブコールをしていない隊もあるのではないかと思い、その展示も兼ねる意味合いで提案した。)

- ・想定がよかった。仮装が新鮮だった。
- ・セレモニーは制服がよかったのではないか。
- ・会場入口に看板があつた方がよい。
- ・雰囲気は良かった。1カ月ぐらい早く行ってもよい。
- ・自然を活かしたプログラムをもっとできなかつたらどうか。
- ・隊によってスカウトの雰囲気が違うと感じた。
- ・一般の人が来られて、プログラム用品の欲しいとのことで提供した。

#### (3) 具体的な検証

##### ①取り組み開始時期

- ・実際の開催までに間が空きすぎてもどうかと思う。
- ・もう少し遅くてもよいのではないか。
- ・4月からの年プロに組み込むためには早い方がよい。
- ・去年はジャンボリーもあり、間が空いたと思う。

テーマ:『多くの子どもにスカウティングを、指導者に基本原則を!』

## ②取り組み方

- ・特になし

## ③想定

- ・適当だった。
- ・想定「オチ」が必要。最後の全体ゲームが「オチ」となったのではないかな。

## ④役割分担

- ・役務の内容を明示した方がよい。

## ⑤会議の方法

- ・実行委員会の中で準備し、進めていく。例えば、会議の準備は総務担当が行い、進めていく。実行委員会の中で完結させる。

## ⑥準備

- ・ポイントの標示を大きく明示する。
- ・大会開催の標示は立て看板だけでもよいのではないかな。

## ⑦当日のこと

- ・特になし

## ⑧会場

- ・良かった。

## ⑨プログラムの内容等

- ・1度下見をしたがその後会場が変更になった。やはり、その会場をきちんと下見をする必要がある。

## ⑩開会式

- ・全体で行ったカブコールについては前述のとおり。
- ・カブコールや仲よしの輪を各隊で行うのはどうか。
- ・旗あげの歌の歌詞が部門によって違う。歌ったスカウトにしてみれば「間違えた」と心を痛めたのではないかな。どちらかに統一した歌詞ではどうか。  
(ソング研修では、それぞれの部門での歌詞でよいとされている。各隊できちんと指導すればよいのではないかな。)

## ⑪閉会式

- ・特になし

## ⑫費用の精算

- (精算していない隊は早急に精算するよう指示)

## (4) 次回大会に向けての取り組みについて

### ①実施時期

- ・次年度も開催の前提で話が進んでいるが、各隊の意見を取り入れてもらいたい。  
(各隊は各ブロックのプログラム委員に意見を出し、年間事業計画に反映させるようにしてもらいたい。)
- ・毎年開催ではなく2年に1度くらいでいいのではないかな。
- ・今回実施して様々な収穫もあった。これを踏まえて来年度(H26年度)は実施してもよいのではないかな。
- ・平成26年10月19日(日)開催としたい。

テーマ:『多くの子どもにスカウティングを、指導者に基本原則を!』

②場所

各団で適当な場所を選定し、次回の委員会で決定する。

③取り組み方

・本検証会の結果を踏まえて取り組む。

次回の会議 2 月 24 日(月) 19時30分から 場所; 開成公民館(予定)

5. 閉会